

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム はるひ苑		
所在地	山口県阿武郡阿東町大字地福上1643番地の1		
電話番号	083-952-5025	事業所番号	3578100384
法人名	有限会社 はるひ福祉サービス		

訪問調査日	平成 20 年 5 月 15 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 10 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人 非常勤 5 人 (常勤換算 6.7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 階	~ 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,400 円	敷金	無	円
保証金	有 200,000 円	償却の有無	無	
食費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
その他の費用	光熱水費 1日300円			
	日常生活費 1日100円			

(4) 利用者の概要 (4月18日現在)

利用者数	8 名		男性 2 名	女性 6 名
	要介護 1	1	要介護 4	2
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢	平均 86.5 歳	最低 80 歳	最高 91 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 原医院 津和野共存病院 歯科 おおた歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

大自然に囲まれ四季折々の草花が咲き乱れるホームは、民家を改修し、住み慣れた家庭の延長線上で暮らせる配慮がされています。地域の受け入れも良好で、いろいろな地域行事(盆踊り、カルタ大会、けん玉大会、新年会)に参加し、中でも神社のカルタ大会では利用者が出場して1,2位を占めるなど目置かれています。隣接する中学校の校庭ではテニスの練習風景が眺められ、交流が生まれています。敷地が広く、沢山の桜の木が植えられ、毎年家族会と合同で花見を開催し、お茶会に住民始め系列の利用者を招き交流をしておられます。

(特徴的な取組等)

毎月発行しているホーム便りはB5版8ページの力作で、利用者の暮らしぶりを写真入で詳しく伝え、家族から喜ばれています。毎日行うレクリエーションは、利用者が交代でリーダーとなり、内容の決定も任せておられ、利用者主体の生活を支援しておられます。薬は薬剤管理簿に記帳し在庫を確認するなど、几帳面に管理されています。毎月モニタリングを実施してサービスの見直しを行い、新たな介護計画を作成して家族に担当のコメントをつけ送付しておられます。同時に家族の意見を聴取するアンケートを同封し返送してもらい、ケアに活かされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価結果については職員と共に検討し、介護計画の見直しなど改善に努めておられます。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員に意見を聞き、集計して、まとめておられます。

(運営推進会議の取組状況)

町職員、地域の世話人、駐在所、家族、利用者のほか町内福祉施設の園長の参加を得て、2ヶ月に1回開催しておられます。ホームの行事、評価結果の報告などを行い、意見を交換して運営に反映しておられます。

(家族との連携状況)

毎月モニタリングを行い、介護計画を見直した新たな計画表や、担当からの状況報告、ホーム便り(B5版8ページの力作)と一緒に送り、家族からの返信時、家族の意見希望などを聞き、サービスに或いは運営に反映されています。家族の面会をしやすいため早朝や勤め帰りの訪問、誕生会への出席を案内しておられます。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、班当番を行うほか、地域の行事(かるた大会、盆踊り、新年会)中学校のけんだま大会などに積極的に参加されています。ホームの花見は近隣の住民も楽しみにされ、また、ホームの応援団も数名おられ、草取り、畑づくりなどに協力されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念を明確に定めているが、地域密着型サービスの理念としての見直しがされていない。	・理念の見直し
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設内各書に理念を掲示し、職員は会議、研修で唱和し、共有して取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の中にある施設として自治会に加入し、班当番、地域行事(かると大会、けんだま大会、新年会、盆踊り大会など)に参加している。地域に苑の応援団がおられ、草取り、行事への協力があり、苑での花見には地域住民も参加され、賑やかに、楽しく交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義を理解し、前回評価結果後具体的な改善に取り組んでいる。自己評価も職員の意見を聞き、取りまとめている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	地域の世話役、介護相談員、町役場・駐在所職員、阿東苑長、利用者、家族会長などの参加を得て、2ヶ月に1回開催している。ホームの行事、外部評価結果などを説明し、意見を聞きサービスに反映している。メンバーである阿東苑長から、管理者に、自苑の会議に参加要請があるなど、他施設との交流もできている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	設立当初から連携が良く取られており、ホームの視察や災害などあったときは、すぐに被害状況の確認の電話が入るなど良い関係を築いている。また管理者は町の会議にも出席し連携を深めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便りを作成し、毎月のモニタリング結果を踏まえた介護計画や利用者の状況と共に報告し、同時に家族から意見を聴取するアンケートを入れ返送を依頼するなど、家族との連携を密に取っている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	電話や面会時、毎月のアンケート、意見箱の設置などで家族から意見、要望を聞き、運営に反映している。玄関に意見箱を設置し、施設の相談窓口、一部の外部機関を書類に明示している。苦情処理手続きが十分とはいえない。	・すべての外部機関の明示と苦情処理手続きの明記
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	9名の職員を確保し、状況の変化、要望に対応するよう勤務調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職があっても今までと同じ対応ができるよう、管理者はじめ職員は常に努力している。ケアマネージャーは4月に交代しているが、ホームは明るい雰囲気であり、影響は見られない。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は勤務の一環として提供し、内部でも毎月研修会を実施し、研修記録も整備している。新人には働きながらのトレーニングを行っている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に参加するほか、同系列の事業所との交流会を実施し「いいとこ発見」としてお互いの良いところを見出し、意欲の向上、サービスの質の向上に取り組んでいる。懇親会も開催している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>「お試し来苑」として施設を見学してもらい、馴染んだ上での利用を勧めている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>掃除は全員で行い、料理は季節の山菜(ふき、たけのこ、三つ葉など)のおひたし、あえもの、てんぷら、新茶づくり、野菜づくりなど利用者からコツを教えてもらいながら楽しく、美味しく作っている。またリーダー役の利用者がおられ、職員もリーダーに任せるなど支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常の会話や行動を観察すると共に、担当がよく話を聞いて意向を把握し、希望に沿えるよう支援している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向を聞き、計画作成担当者は、毎月モニタリングを行い、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>変化が生じたときには家族、主治医と相談し、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎、付き添い、買い物、近くの理美容院の利用など、要望に応じて柔軟な支援をしている。他の施設に入っている夫婦の希望に添い、家族を説得して面会を実現させ喜ばれた事例もある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	県外(津和野、益田)、山口市、町内を問わずかかりつけ医との関係を大切にして、送迎を含め適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は、家族、主治医と相談の上適切な医療が受けられるよう支援している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	権利擁護の研修を受講し、内部研修で徹底を図り注意している。記録の保管についても配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おおよそその一日の流れはあるが、利用者のペースを大切に自由な生活を支援している。嚥下体操、苑内散歩、その他レクリエーションのメニューが沢山書かれて掲示しており、利用者はその中からしたいことを選択して実施している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食ともホームで作り、献立、買い物、準備、調理、配膳、食事、後片付けなど利用者、職員一緒に行っている。季節によっては庭で食べたり、突発的な希望(刺身が食べたい)にも対応している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日16時ごろから入浴できるが、利用者の希望を聞き、ほぼ隔日の入浴である。排泄による汚れがある時は洗浄などの対応をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌を歌ったり、ゲーム、散歩、お茶つみ、お茶づくり、野菜づくり、豆腐づくり、料理など得意な分野で腕を振るう人、掃除、洗濯物たたみなど、活躍できる場面を多く作り、楽しみや、張りのある生活を支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、受診時に外食したり、ふるさと訪問、墓参り、美術館へ行くなど希望に沿った支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけていない。センサーは2箇所設置され、音が聞こえればすぐに対応し一緒に出かける。縁側からは自由に出入りができ、常に見守り、寄り添う支援をしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書をきちんと書き、一人ひとりの改善策を検討し事故防止に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の救急救命訓練は実施しているが、応急手当、初期対応の訓練が不十分である。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施している。避難経路、避難場所を確認し、タオルを口にあてて移動する訓練をしている。近所の協力も依頼している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理簿を整備して在庫を確認し、薬の説明書も添付してすぐ見られるようにしている。夜勤職員が個人ごとの投薬箱に入れて引き継ぎ、服薬の都度手渡して確認している。必要な情報は主治医に伝えている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後声かけ誘導を行い、口腔ケアを支援している。義歯の消毒、保管は每晚支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、栄養バランスに注意している。水分は1600ccを目標に、お茶、ジュース、ヨーグルト、生姜湯、コーヒー、紅茶などを準備し、不足しないよう気をつけている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、実行している。台所用品は熱湯で、冷蔵庫はアルコール消毒、手すりは夜勤者がアルコール消毒している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	各部屋の周囲は縁側となっており、雨の日でも苑内散歩ができる。各居室、居間からは外の風景、庭が眺められ、季節の草花を觀賞し、中学校の校庭では子供たちの元気な姿が見え、声が聞こえ、居心地良く、くつろぐことができる。台所は、食堂を兼ねており、身近で料理が作られ自宅と変わらない雰囲気である。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	和室を改良した居室で、ふすまを開けて隣と交流もでき、自由に或いはプライバシーに配慮して居心地良く過ごせる工夫をしている。個人の使い慣れた家具、道具が持ち込まれている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム はるひ苑
所在地	山口県阿武郡阿東町地福上1643-1
電話番号	083-952-5025
開設年月日	平成14年10月1日

【サービスの特徴】

・阿東町の大自然の四季、澄みきった空気、高原で育った食物等大変よい環境の中にあります。また、隣接する阿東中学校、地域の行事の拠点でもある、老人福祉センターへは徒歩3分の距離にあります。

・はるひ苑の理念に基づいた介護方針で“その人らしく、あるがままに、”日々穏やかにお過ごしいただき、満足していただけるよう全職員取組んでいます。

・平成14年開所より6年目をむかえ、より充実し、地域の皆様に貢献出来ますよう日々、研鑽をつんでまいります。

【実施ユニットの概要】（4月18日現在）

ユニットの名称	グループホーム はるひ苑			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	8名	男性 2名	女性 6名	
	要介護1	1	要介護4	2
	要介護2	2	要介護5	0
	要介護3	3	要支援2	0
年齢構成	平均 86.5歳	最低 80歳	最高 91歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員で行い、それを集計、ふまえて作成する。
評価確定日	平成20年4月18日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>・施設内各所に掲示してある。</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>・各会議、部所内研修で唱和している。 ・カンファレンス、モニタリング等で実践出来るようにプランは 思念に基づくものになっている。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>・契約書、パンフレットにて紹介。 ・掲示してある。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>・主任者会議、ミーティング等で介護の内奥についても検討している。</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>・推進会議にて浸透出来るようにしている。(はるひだより配布、家族会、面接時)</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>・地域の中にある施設として、行事への参加、又、招待、買い物等出来るだけ地域に出かけてゆくようにしている。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>・かるた大会、けん玉大会、班の当番、新年会、盆踊り等に 参加させていただいている。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>・相談を受ければボランティアとして受け入れ、また、介護へのアドバイスを用意がある。</p> <p>・活動としては活発ではないがこれからの活動として“あそこに相談してみよう。”と言われるようになるよう活動してゆきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・毎年、評価内容をふまえ、向上するよう全員で共有し、実践している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	・評価の公表をし、取り組みについて報告、アドバイスもいただくようにしている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	・苑長が町内外の機関に参加し、より良いサービス提供が出来るよう、内部研修、ミーティング、主任会議にて指導している。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	・苑内研修の一貫として行っている。(権利に基づくサービス指針をケアプランに入れている)	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・苑内研修においておたがいに学習している。	権利擁護に基づきスタッフ全員に徹底させ、理想的なサービスを常に問い、業務をしている。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・十分に説明する機会を入所時つくることで、理解していただけようつとめている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・二つの事業所の交流研修等、相談員の受け入れ、御意見箱設置等を設けている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月のモニタリング結果、ケア計画、生活について経過報告を担当を通じてお伝えすることが出来るようにしている。また、健康面では、必要に応じて家族に相談し、家族に決定していただくよう連絡は常にとっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	・いつでも開示出来るようにしている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	・苦情、相談窓口の設置、御意見箱の設置がしてある。推進委員会等にて報告するようにしている。また、町の介護保険担当も報告するようにしてある。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・主任者会議、ミーティング等で意見等を提案するようにしている。また、起案書も利用できるようにしてある。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	・日々、状況の変化があるがその都度話し合い、柔軟な対応をしている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・常に努力している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・外部より招き、スキルUPのための研修を毎月設けている。また、外部研修(全国大会等)も受ける事が出来るよう配慮されている。		・新人職員用教育カリキュラムの作成。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	・し年令、各種能力等を生かして配置できるよう話し合い、希望も取り入れている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・交換研修を実施している。また、推進委員会等に出席をお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		・希望による勤務内容を考えてる。待遇改善を行う。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		・ケアプラン立案の基本としている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		・ケアプラン立案の基本としている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		・地域で家庭医として長く馴染みのあった主治医受診時の帰り等にドライブし、なじみのあった場所をたずねている。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		・出来るだけ入所者の方の意見にて、生活を成り立たせることが出来るようにしている。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		・ケアプランの基本においているが、集団においてどのように平等に思いをかなえられるか、全員で話し合うこともある。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		・モニタリング、カンファレンス等で情報を共有している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、特、本人、家族の方の意見を基にケアプラン化している。	・他の入所者とのかわりも考えプラン化している。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・変化に応じて、ケアプランは変えている。家族の意見、主治医のアドバイスを聞き、本人の希望を基に変更している。	・モニタリングの結果も職員だけにとどまらず、家族の方へお送りして意見をいただいている。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・全員毎日時間的に、記録をし、モニタリングしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・必要性に応じて実施している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・推進会議を中心をお願いしている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	・要望があれば、実施できる用意がある。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	・必要性に応じて行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>・内部研修等にて徹底をはかるようにしている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・回想法、つちかわれた生活習慣が生かせるよう、また、わかる力が充分出せるようゆったりと穏やかな雰囲気づくりに努力、何でも訴えることが出来るように配慮している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>・なごやかな雰囲気づくりに努力し、その人のわかる力、できる力が発揮できるようにつとめている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・その人のペースに合わせたすごし方が出来るよう、ケアプランを立案している。カンファレンスにてスタッフ間で徹底をはかっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・本人、家族と話し合いながら実施している。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・食事の希望を聞き献立をし、買い物にも同行していただいている。また、盛り付け後、片付けは男性の方に手伝っていただいている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>・嗜好品は、出来るかぎり本人と話し合い、応じている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>・全員をトイレ誘導している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・入所者、家族の方との話し合いで、1人で入浴できないことから1日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日でも入浴可能である。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	・自由に生活していただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・実施している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・家族の方と話し合い、実施している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・希望に応じている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望に応じて実施している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて実施している。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・ご希望に応じている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	・ご希望通りに自由にいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		・職員個人差も多少あり、レベルUPにつとめたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・年二回、避難訓練を実施している。 その時に班長、近所の方、家族会の方等にも参加をお願いしている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・リスクはケアプラン立案時、アセスメントしている。また、対応も家族会の方、本人の動向を聞き、ケアプランを作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・月にバイタルサインのチェック、行動、食欲等を把握するよう、また、情報の共有が出来るよう、チームワーク作りにとり組んでいる。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	・必ず、主作用、副作用と思えることも主治医に伝えるようにしている。たな、文献(薬)はスタッフ間で共有し、読めるようにしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	・個人別にとり組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	・毎食後必ず行なっている。 義歯の消毒は夜間行なっている。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・常に見守りをしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	・実行している。集団生活であり注意している。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・常に配慮、消毒、洗浄、乾燥に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・配慮している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	・プライバシーが守れるよう、また、その機能に応じてくつろげるよう配慮している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・思い思いの場所ですぐすことの出来るよう、自由に動けるようにしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・実施している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・実施している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	・広々とした空間ではないが、安全性は確保できている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・混乱し、不穏のないよう言動に注意し、自由に行動していただくよう見守り。	
97	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・外庭にて食事、おやつタイムを楽しむこと、花見等も出来る。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	<input type="radio"/> 家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="radio"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	<input type="radio"/> 職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが ほとんどできていない